

環境活動報告 2017 年度



成蹊学園の環境側面

環境側面とは、成蹊学園が教育研究を進めていく上で環境と相互に関係しうる内容のことです。

たとえば、環境保全に関する教科を設置すると「プラスの環境側面」、電気や紙を使用すると「マイナスの環境側面」となります。



プラスの環境側面

環境方針	著しい環境側面	目的 2017年度	目標 2017年度	達成状況
環境問題に貢献する人材育成 および環境分野の研究推進	環境教育・学習プログラム の提供	小・中高・大学における環境教育・学 習の機会を増やし、充実させる。	小・中高・大学における環境教育・ 学習の機会を増やし、充実させる。	○
環境問題に貢献する人材育成 および環境分野の研究推進	環境関係の研究の実施	中高・大学における環境関係の研究を さらに増やし充実させる。	中高・大学における環境関係の研究を さらに増やし充実させる。	○
環境に関する教育研究の発進・ 公開、社会貢献を図る諸活動	環境問題に対する理解 と関心の向上	学園における環境教育・学習について、 発信・公開するとともに自らの環境へ の意識を高める。	学園における環境教育・学習について、 発信・公開するとともに自らの環境へ の意識を高める。	○
近隣地域とのコミュニケー ションを図る	地域とのコミュニ ケーション	地域社会とのコミュニケーションのさ らなる充実を図る。	地域社会とのコミュニケーションの さらなる充実を図る。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	環境の整備・緑の保 全・充実	キャンパスの緑の維持と適正な計画に よる整備・充実を図る。	キャンパスの緑の維持と適正な計画 による整備・充実を図る。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	環境負荷低減への配慮	環境負荷低減に配慮した施設・設備の 導入と備品及び物品等の調達を進める。	環境負荷低減に配慮した施設・設備の 導入と備品及び物品等の調達を進める。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	製品の購入	グリーン購入の取り組みを推進する。	グリーン購入の取り組みを推進する。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	エコ空間の創造	学園の事業活動（教育、研究等）とバ ランスのとれた環境活動に取り組む。	学園の事業活動（教育、研究等）とバ ランスのとれた環境活動に取り組む。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	省資源化	省資源化による環境に配慮したキャン パスづくりを進める。	省資源化による環境に配慮したキャン パスづくりを進める。	○



マイナスの環境側面

環境方針	著しい環境側面	目的 2017年度	目的 2017年度	達成状況
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（省エネルギー）	電力・ガスの 使用	電気・ガス使用量の削減 基準値（2008～2010年度実績）に 対し3年間で1.5%削減（3年平均）	電気・ガス使用量を基準値（2008～2010年度実績） の年平均使用量に対し、学園全体で1.5%削減する。	電気：○ ガス：○
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（省資源）	水の使用	水の使用量の削減 基準値（2008～2010年度実績の平均） に対し3年間で1.5%削減（3年平均）	水の使用量を基準値（2008～2010年度実績）の 年平均使用量に対し、学園全体で1.5%削減する。	○
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（省資源）	紙の使用	紙の使用量の削減 基準値（2008～2010年度実績の平均） に対し3年間で1%削減（3年平均）	紙の使用量を基準値（2008～2010年度実績）の 年平均使用量に対し、学園全体で1.0%削減する。	×
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（廃棄物の減量）	使い捨て物品 の使用	使い捨て容器・割り箸・レジ袋・文 具の削減を手順に基づいて実施する。	使い捨て容器・割り箸・レジ袋・文具の削減を手 順に基づいて実施する。	○ ※1

※1 数値の測定は割り箸のみ実施。



学校法人成蹊学園

【活動報告】

12月に東京ビッグサイトで行われた日本最大級の環境展示会「エコプロ2017」に出展し、これまでに各区域で取り組んできた環境活動をPRしました。武蔵野の緑豊かなキャンパスの中、一貫教育を実践する総合学園という成蹊学園のメリットを活かし、今後も環境に関するさまざまな活動を継続して行います。



エコプロ 2017

【今後の目標】

- 学園の樹木をはじめとする自然環境の保全・整備に努めます。
- 東京都環境確保条例に定められたCO₂削減目標を達成します。
- 環境に配慮した施設・設備の整備をします。

成蹊小学校

【活動報告】

学園コンポストの堆肥、焼き芋会で利用したケヤキの落葉の草木灰を利用して、畑の土をつくり、栽培活動・園芸委員会活動に役立てています。こみち科、社会科、理科などの学習を中心として、環境に関する授業を展開しています。教職員・児童がエネルギー削減に取り組む活動に務めています。



小麦の収穫

【今後の目標】

- 畑での環境循環栽培の学習を継続しています。
- こみち科、社会科、理科等で、環境学習を実践しています。
- 児童会、教職員がエネルギー削減に取り組む活動を実践しています。

成蹊中学校・高等学校

【活動報告】

理科、社会科、家庭科などを中心に環境に関する授業を展開し、自然観察会や宿泊行事、気象観測等を通じて、環境について考えました。日頃から敷地内の緑化を推進し、緑の保全に努めています。

特に、文化祭では実行委員会を中心に、ゴミステーションの設置やゴミ自体の削減の工夫、環境に関する展示を続けています。



中学生対象の理科野外観察会（天体観望会）

【今後の目標】

- 授業や行事において環境に関する教育を充実させます。
- 生徒会を中心として、リサイクルなど、環境に関わる活動を推進します。
- 施設や備品を長く大切に使い資源の有効活用と環境美化に努めます。

成蹊大学

【活動報告】

夏季には学生ボランティア本部 Uni. 環境チームの学生の協力により、ゴーヤのグリーンカーテンを用いた壁面緑化を行いました。また、前年度発足した、学生による植栽、花の手入れを行う「フラワーマネージャー」プロジェクトをさらに発展させ、植栽だけでなくケヤキの落ち葉を資源化し循環させる広義的な緑の活動「けやき循環プロジェクト」を新たに始動させました。10月・3月には学内のプランターの植え替え作業を、11月・12月には樺並木で落葉あつめを実施しました。集めた落葉は今後堆肥化を試み、キャンパス内のプランターに使用する計画です。

その他、毎年11月に実施している「環境ウィーク」では、環境委員会の教員による環境関連図書の本展覧会や、学生ボランティア本部 Uni. 環境チームの協力のもと、オリジナルエコバッグを製作するワークショップを開催するなど身近なエコ活動の推進に取り組みました。



けやき循環プロジェクト



「環境ウィーク」オリジナルエコバッグ

【今後の目標】

- 環境に関する研究を推進し、研究成果を広く公表していきます。
- 環境に関する授業科目を通じ、学生及び教職員の環境に対する意識の向上と、行動の推進に努めます。
- 環境に関する学生のボランティア活動を支援し、学生の意識の向上と学内、地域の環境保全に寄与していきます。
- 学園全体の管理体制に則り、薬品や高圧ガスの使用量や貯蔵量の管理を法令順守の観点に基づき実施します。



エネルギー消費状況／用紙使用量

2017年度学園全体のエネルギー使用状況

学園では、エネルギー使用量の削減のために、省エネ機器の導入・更新を進めており、運用面においてもクールビズやウォームビズに対応した温度設定（夏：28度、冬：20度）を徹底しています。また、電気・ガス・水道使用量については、2008～2010年度実績の平均値に対し3年間（2017～2019年度）で1.5%削減（3年平均）という削減目標を設定しています。

電気使用量（kwh）

建物やグラウンドの照明や冷暖房設備（一部）に使用しています。2017年度は2008～2010年度の平均値に対し、5.3%削減しました。

ガス使用量（m3）

冷暖房設備のほとんどはガス（GHP方式）を使用しています。2017年度は2008～2010年度の平均値に対し、8.5%削減しました。

水道使用量（m3）

各学校キャンパスにある建物や食堂の水として使用しています。2017年度は2008～2010年度の平均値に対し、12.6%削減しました。

CO₂換算排出量（tCO₂）

学園で使用しているエネルギー（電気、ガス、灯油、LPG）の使用量をCO₂排出量に換算し、合算した値です。削減目標は設定していませんが、2017年度は2008～2010年度の平均値に対し、8.5%増加しました。

2017年度は、エネルギー使用量は基準値に対して大幅に削減できました。学園全体として、東日本大震災以降の節電の取り組みが継続されているため、減少しました。

▶ 2017年度エネルギー消費状況

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/data2017.pdf>

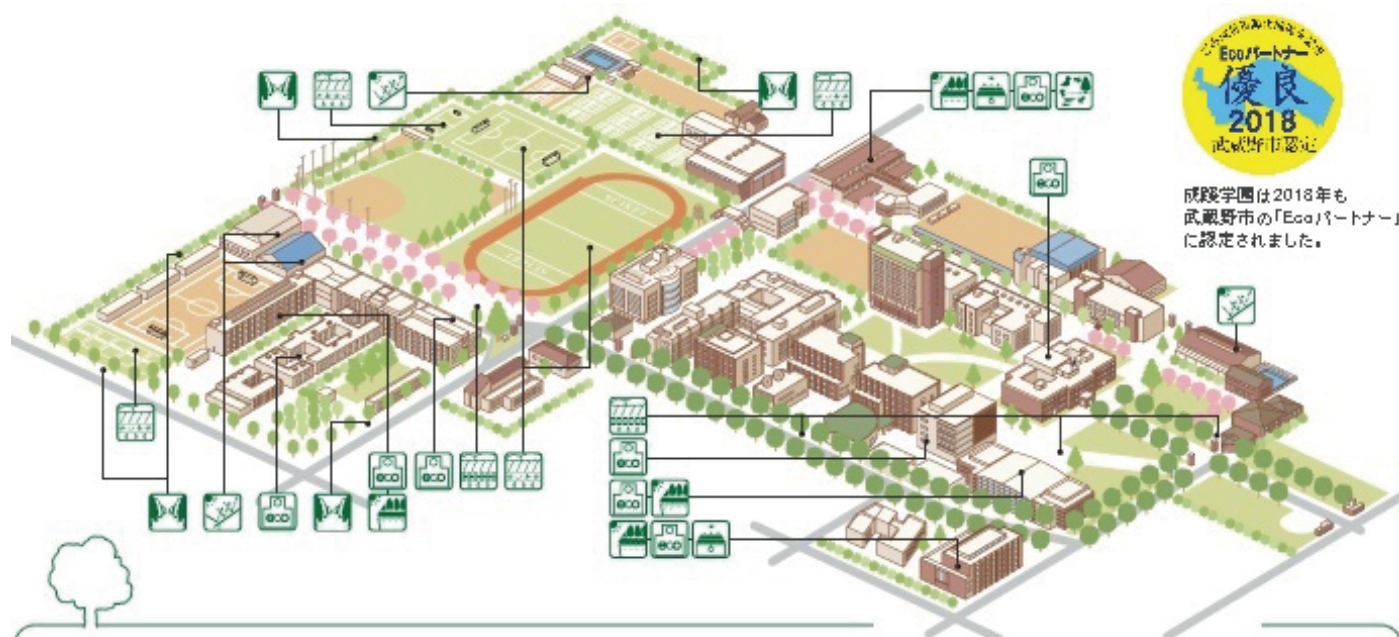
▶ CO₂換算データ

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/yeardata.pdf>

用紙使用量

▶ 2017年度用紙使用量

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/paperdata2017.pdf>



成蹊学園は2018年も
武蔵野市の「Ecoパートナー」
に認定されました。

環境に配慮した施設・設備の整備に取り組んでいます

成蹊学園では2008年11月、吉祥寺キャンパスを対象範囲として、環境ISO (ISO14001) の認証を取得しました。
地球・地域環境に配慮したエコキャンパスを目指し、環境保全に対応したさまざまな施設・設備の充実をはかっています。



雨水浸透人工芝

地下水を豊かにし、水循環を健全にする効果があります。



雨水浸透インターロッキング

小さなブロックを敷いた舗装により、雨水浸透をはかります。



雨水浸透アスファルト

通常より浸透性のよいアスファルトを用いています。



沿道緑化

ウバメガシなどの植樹により、景観の緑化を進めています。



日射熱遮断塗装屋上

日射反射率の高い塗装で、屋根表面温度の上昇を抑えます。



屋上緑化

屋上表面温度と内部温度の上昇を和らげる効果があります。



省エネ型校舎

センサー型自動照明など、各種環境技術を使用した校舎です。



太陽熱発電

光を電気エネルギーに変えて、照明などの補助電力として活用しています。



ビオトープ

池を中心に各種水生動植物の棲息を観察できる庭園です。